

「課題名：ab interno 線維柱帯切開術後の角膜高次収差」

○ 研究の意義・目的

Ab interno 線維柱帯切開術後に角膜高次収差（角膜の歪み）を生じているかどうかを調べ、角膜の歪みによって見え方の質の低下が起こりうるかどうか検討します。結果によっては術後の見え方に関する理解が深まり、術後の症状への説明が可能となります。

○ 研究対象者

2019年6月～2020年12月の間に、広島大学病院で Ab interno 線維柱帯切開術または白内障手術を受けた方。

○ 研究方法

本研究は、全て診療録（カルテ）情報を転記して行います。

カルテから転記する内容は角膜高次収差・眼圧値・視力・病型・年齢・性別・合併症・点眼スコア・手術内容です。

○ 試料・情報の管理責任者

所属 広島大学大学院医系科学研究科視覚病態学 職名 教授 氏名 木内 良明

○ 研究期間 2020年10月22日（委員会承認後）～2024年3月31日

○ 個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせください。

*研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。

お問い合わせ先

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5247

広島大学 医系科学研究科 視覚病態学

教授 木内 良明（研究責任者）

大学院生 尾上 弘光（担当者）